



持田小学校学校だより

# オアシス

※学校ホームページは  
こちらからどうぞ→



2025年度 第9号  
令和8年1月20日  
松江市立持田小学校  
校長 吉田 卓矢

## 3学期がスタートしました

みんな元気にやってくるかな？少し心配して校門で待っていると、そのような心配は全くいりませんでした。2学期よりも元気で、すてきな挨拶をしてくれる人が多くいたように思えます。「ありがとう」と返事をしたくなる瞬間でした。

さて、持田小学校でも3学期の始業式を迎えました。始業式では、まず、校門での出会いの感想も交えながら「新年を迎えて、みなさんのやる気が伝わってきました。」と伝えました。本当に、まっすぐ前を見て、きらきらする目で私が話をするのを聞いてくれている!!と感じられる立派な態度でした。

「お正月はどうでしたか？」と尋ねると「怖かった」とつぶやく声が複数聞こえてきました。始業式の2日前、6日に松江市を震度5強の地震が襲いました。みなさまのお家や関係の方々周辺の被害はありませんでしたでしょうか？こども達からは、大きな被害はなかったと聞いていますので、ほっと胸をなでおろしたところです。実は、12月に持田小学校では、地震を想定した避難訓練をしたばかりでした。それでも、訓練と実際の地震は全然違います。一人またはこどもだけで留守番をしていた人も多かったことでしょう。

このことも含め、始業式では日頃から他人事として軽く考えず、自分のこととしてイメージすること、できることが大切です。そうすれば、(教職員も含め)友達のつらい気持ちに寄り添ったり、うれしい気持ちを共有し、共に喜んだりできる仲間(集団)になれるはず。大人も、こどもも一緒に協力して、学年のまとめをしましょう。そして、みんなで持田小「楽幸」をつくっていきましょうという内容の話をして3学期のスタートとしました。



## 寒さに負けずに体力づくり!!

今年度もやっています!!寒さに負けずに体力づくり!!

持田小学校の一つの特色?というか、ここまでくるともはや伝統でもあると思います。委員会主催でありながら全校縦

割り班対抗のなわとび集会(成果発表会)を2月9日に開催します。なわとびは持久力、瞬発力や手足の協調性を高めるために大変有効な運動の一つです。しかし、何かのきっかけがないとなかなか継続して取り組むことが難しいという側面もあります。持田小学校では、全校が一堂に会し、自分に合った跳び方で友達と競い合い、点数化して互いに認め合いながら、体力づくりに生かすためになわとび集会を実施しています。

体育の授業の時はもちろん、休み時間にもあちらこちらで練習している姿が見られます。「初めて二重跳びが跳べるようになったよ。」「難しい技に挑戦しています。」など楽しそうに挑戦する姿は、見ていてとても輝いています。



## 学校評価アンケートに協力していただきありがとうございました。

年末に実施させていただきました「お子さんのご家庭での生活についてのアンケート」にご協力いただきありがとうございました。年末のお忙しい時期にもかかわらず、たくさんの保護者の方から回答をいただき、回答率は86.9%にもなりました。これはP数(236名)を上回り、兄弟がおられるご家庭でも、丁寧にお一人お一人に回答していただいた結果です。本校の教育活動に興味関心をお寄せいただき、教育の質の向上に向け参画していただいていることに感謝すると共に、重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。

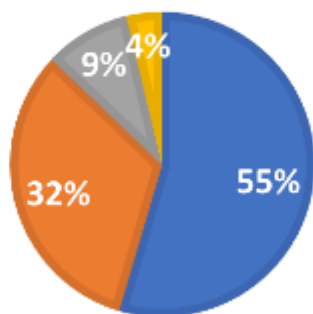
全てではありませんが、本校の目指すこども像である「笑顔があふれ、楽しくて、幸せを感じられる学校(楽幸)」や学力に関する項目等についてピックアップしながらお知らせしたいと思います。

### 「笑顔があふれ、楽しくて、幸せを感じられる学校(楽幸)」づくりについて

学校は楽しいですか?

児童

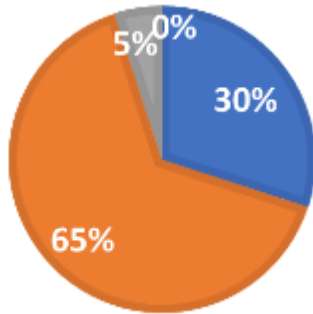
■ はい ■ まあまあ ■ あまり ■ いいえ



楽しくて幸せな学校になっていますか?

教職員

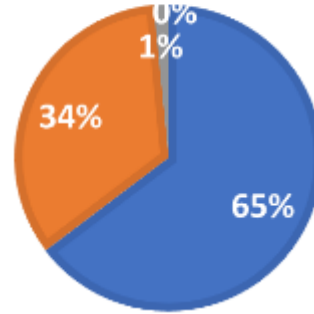
■ はい ■ まあまあ ■ あまり ■ いいえ



楽しく学校に行っていますか?

保護者

■ はい ■ まあまあ ■ あまり ■ いいえ



児童、教職員、保護者の85%以上が肯定的評価をしていることに本校の教育活動の方向性は、おおむね健全な方向に進んでいると考えます。教職員の評価よりも、保護者の皆様からの評価がより高いことについても嬉しく思いますし、これを励みにしてさらに努力をしていこうと教職員一同気持ちを新たにしたところでもあります。

一方、見過ごしてはならないのは、児童の評価で「学校が楽しいですか?」という問いに「あまり」が9%、「いいえ」が4%もいるということです。この背景については、様々な要因があり、今後もよりきめ細やかな児童理解に努めていかな

裏面に続きます→

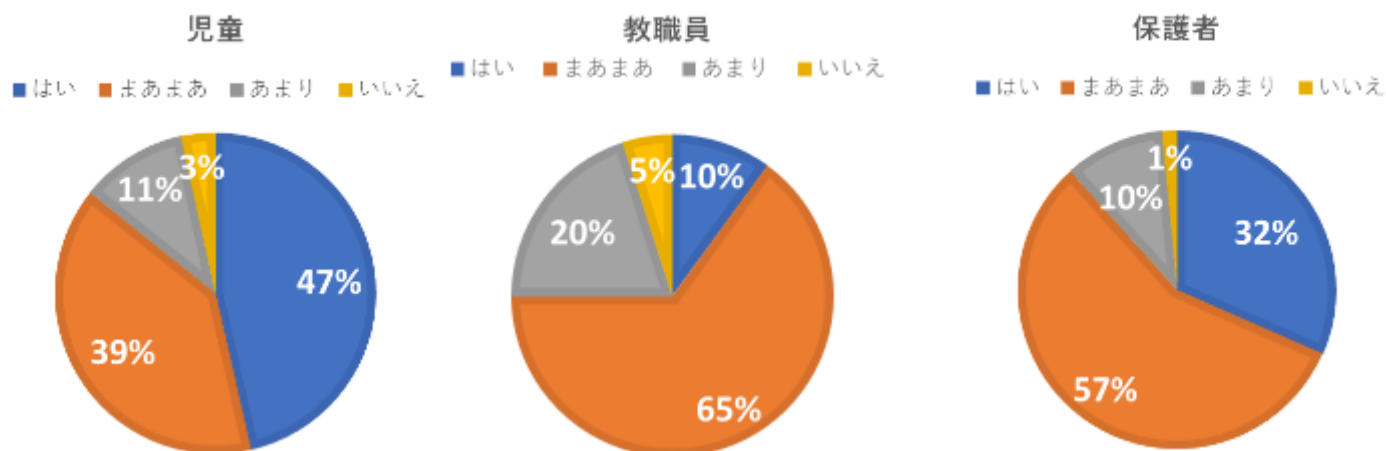
(グラフの色が見にくいですが、ホームページで見ていただくときと色分けしてありますので、分かりやすくご覧いただけます。)



いといけなく考えています。生徒指導上のことや人間関係上のことについては児童の発達段階に応じて、かわり方や思いやりのスキルを培っていくことに加え、本校が推進している人権教育、特に「オアシス運動」の定着に取り組んでいきたいと思っています。

さらに、他のアンケート項目と合わせてみると、もう一つの方向性も可能性として見えてきました。

**勉強はよくわかりますか？**    学習内容を理解し、定着している    学習内容について理解し、定着している

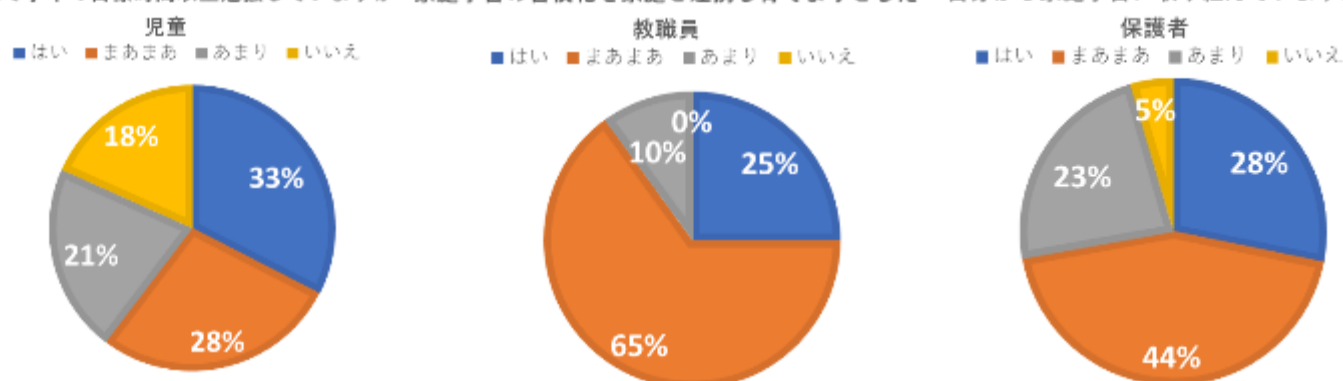


これは、「学習内容の定着」に関する項目です。学習内容の定着は、授業力の向上を図り、教職員一人一人がその資質を向上させていくよう努力をしております。また、学校全体で子ども達が、自ら進んで学習に取り組めるように工夫、改善していきたいと思っています。

ここで、興味深いのは「学校が楽しい」と「勉強がよくわかる」の質問で、肯定的評価と否定的評価の割合がほぼ同じということです。学校として取り組まなければならないことは、まずは、子どもたちが安心・安全を感じられる環境を整備していくことですが、その土台の上に「勉強がよくわかる」と子ども達を感じられる学力の定着も両輪で考え、取り組んでいかないといけないということを改めて確認したところです。

関連して、もう一つよく似た傾向の項目がありますので、ご紹介します。

**毎日家で学年の目標時間以上勉強していますか**    **家庭学習の習慣化を家庭と連携し育てようとした**    **自分から家庭学習に取り組んでいますか**



これは「家庭学習」に関する項目です。学校外での学習の習慣化、定着に向けて、工夫改善していきたいと思っています。

ここでも注目したいことは、毎日家で学年の目標時間以上勉強（家庭学習）をしていますかという質問に「いいえ」と回答した児童の割合が18%という部分です。これは「勉強がよくわかる」という質問の否定的回答の割合と有意な関連がありそうです。「勉強がよくわからないので、学校が楽しくない」とか「勉強がよくわからないので家庭学習もしたくない」となると、絶対的な学習量が少なくなり、さらに勉強がよくわからないという悪い循環となってしまうのか？この悪い循環を断ち切り、少しでも「勉強がよくわかる」「勉強が楽しい」と思える循環にしていけることが、「笑顔があふれ、楽しくて、幸せを感じられる学校（楽幸）」づくりにつながっていると考えています。家庭学習については、ICT機器の活用や一人一人に応じた学習内容の工夫などにより、さらなる工夫と改善を進めてまいります。そのためにも、できていない部分に目を向けるのではなく、できている部分に目を向けて伸ばしていく＝ポジティブ行動支援をさらに進めていきたいと思っています。ぜひご家庭でも同じ方向を向きながら、子ども達の成長を共に支えていくことができますよう、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

他の項目についても、グラフ化したのでお知らせいたします。次ページ→